

同時資料提供

大阪科学・大学記者クラブ
大阪教育記者クラブ
南大阪記者クラブ
関西レジャー記者クラブ

大阪市立自然史博物館、北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）、徳島県立博物館 同時発表

ミニ展示「和泉層群から41年ぶりに新種記載された異常巻アンモナイト」を開催します

【二枚貝と共生する奇妙な形をしたアンモナイトの新種を発見】

この度、大阪市立自然史博物館、北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）、徳島県立博物館が所蔵する香川県から発見された化石を、北九州市立いのちのたび博物館と徳島県立博物館で共同研究した結果、新種のアンモナイトであることがわかり学術誌に掲載されましたので、実物化石を特別公開します。

記

1. 発見の要点

- ・複雑な巻き方をした奇妙な形のアンモナイトの新種
- ・「ディディモセラス・モロズミイ」と命名
- ・讃岐山脈をつくる恐竜時代の地層では41年ぶりのアンモナイトの新種
- ・日本固有のS字状をしたアンモナイト（プラビトセラス）の進化を解明する上で重要
- ・殻の表面に付着する二枚貝と共生関係にあった

2. 産地

香川県東かがわ市

3. 時代

中生代白亜紀後期カンパニアン期（約7400万年前）

4. 詳細情報

別紙参照



■一般展示

【大阪市立自然史博物館】

1. 名称：ミニ展示「和泉層群から41年ぶりに新種記載された異常巻アンモナイト」
2. 会期：令和3年4月23日（金）～令和3年6月20日（日）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、お住まいの地域のガイドラインに沿ってご来館いただきますようお願いいたします。最新情報は、当館ホームページ等

ご確認ください。

3. 開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
4. 休館日：月曜日（ただし5月3日は開館）、5月6日
5. 場 所：大阪市立自然史博物館 本館（1階）
6. 観 覧 料：本館入館料が必要

【北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）】

1. 名 称：「二枚貝と共生する奇妙な形の新種アンモナイト化石特別公開」
2. 会 期：令和3年4月23日（金）～令和3年6月6日（日）
3. 開館時間：午前9時00分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
4. 休館日：会期中は、休館日はありません
5. 場 所：いのちのたび博物館、常設展内
6. 観 覧 料：常設展の観覧料が必要

【徳島県立博物館】

1. 名 称：「徳島まるづかみ展 ―コミュニケーションで展示を楽しもう！―」
2. 会 期：令和3年4月23日（金）～令和3年5月30日（日）
3. 開館時間：午前9時30分～午後5時
4. 休館日：4月26日、5月6日、5月10日、5月17日、5月24日
5. 場 所：文化の森多目的活動室（1階）
6. 観 覧 料：無料

■新種のアンモナイト化石についての問合せ

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）

〒805-0071 北九州市八幡東区東田2-4-1

TEL：093-681-1011 e-mail：misaki_a@kmnh.jp

担当：自然史課 学芸員 御前（みさき）

■大阪市立自然史博物館の展示についての問合せ

大阪市立自然史博物館

TEL：06-6697-6221 e-mail：tmaekawa@mus-nh.city.osaka.jp

担当：学芸課 学芸員 前川（まえかわ）

■広報に関する問合せ

大阪市立自然史博物館 総務課（広報担当） 森松

TEL：06-6697-6222 FAX：06-6697-6225 e-mail：s-morimatsu@ocm.osaka

「二枚貝と共生する奇妙な形をしたアンモナイトの新種を発見」詳細資料

発見の要点

- 1, 複雑な巻き方をした奇妙な形のアンモナイトの新種
 - 2, 「ディディモセラス・モロズミイ」と命名
 - 3, 讃岐山脈をつくる恐竜時代の地層では41年ぶりのアンモナイトの新種
 - 4, 日本固有のS字状をしたアンモナイト（プラビトセラス）の進化を解明する上で重要
 - 5, 殻の表面に付着する二枚貝と共生関係にあった
- (1～5の詳細は下記の通り)

1, 複雑な巻き方をした奇妙な形のアンモナイトの新種

- ・発見された新種は、螺旋状に巻く一般的なものとは異なり、異常巻アンモナイトという仲間に含まれ、複雑な巻き方をする（図1, 2）。



図1. 新種のアンモナイト「ディディモセラス・モロズミイ」の標本写真。

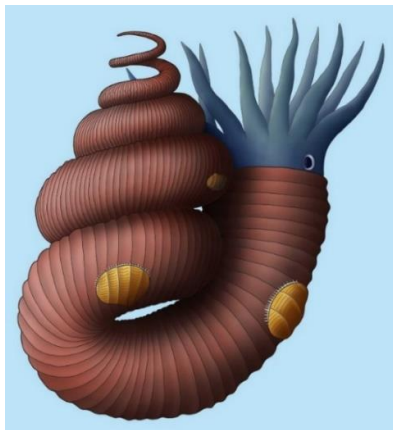


図2. 新種のアンモナイト「ディディモセラス・モロズミイ」の復元図（全長15 cm前後）。殻の表面に黄色く描いているのは、共生する二枚貝。

2, 「ディディモセラス・モロズミイ」と命名

- ・ *Didymoceras* 属の新種として命名（学名は *Didymoceras morozumii*）。
- ・ *morozumii* は、徳島県立博物館元館長の 両角芳郎（もろずみ よしろう）博士 のこれまでの功績を称えたもの（最後の「i」は、ラテン語で男性名の所有格を意味する）。
- ・ 両角博士は、大阪市立自然史博物館および徳島県立博物館で地質や化石に関する研究・普及活動を精力的に行われた。研究面では、四国・淡路島・紀伊半島に広く分布する白亜紀の地層「和泉層群」におけるアンモナイト研究の基礎を築かれた。

- ・新種を報告する論文は、2021年4月発行のPaleontological Research (パレオントロジカル リサーチ、日本古生物学会発行英文誌) 25巻2号に掲載。著者は、御前明洋(みさき あきひろ、北九州市立いのちのたび博物館学芸員)・辻野泰之(つじの やすゆき、徳島県立博物館学芸員)。

3, 讃岐山脈をつくる恐竜時代の地層では41年ぶりのアンモナイトの新種

- ・本種の標本は種が不明のまま以前から多数採集されており、いずれも香川県東かがわ市より産出(図3)。複数の化石収集家によって採集され徳島県立博物館や大阪市立自然史博物館に寄贈された標本および、本研究によって採集された北九州市立いのちのたび博物館所蔵の標本、合計50個以上を観察・検討した結果、新種と判断された。
- ・産地を含む讃岐山脈には中生代白亜紀後期に堆積した和泉層群と呼ばれる地層が分布し、これまでも様々なアンモナイト化石のほか、モササウルス類や恐竜類などの大型爬虫類も見つかっている。
- ・地層や含まれる化石から、ディディモセラス・モロズミイは、約7400万年前の生物と推定される(約7500万年前～約7240万年前の間のどこかを定めることはできないが、中ほどの値として7400を用いた)。
- ・讃岐山脈からは、1980年にも新種のアンモナイトが報告されている。

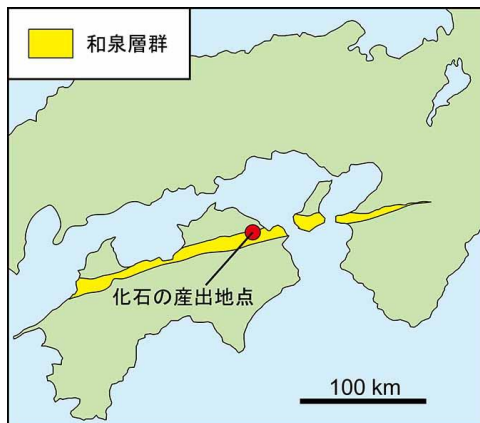


図3. 新種のアンモナイト「ディディモセラス・モロズミイ」の産地の位置。

4, 日本固有のS字状をしたアンモナイト(プラビトセラス)の進化を解明する上で重要

- ・鳴門市や淡路島などからは、日本だけから見つかっているプラビトセラス・シグモイダーレと呼ばれるアンモナイトが産出する。このアンモナイトはS字型をした特に奇妙な形の殻を持つ。
- ・これまで、プラビトセラス・シグモイダーレが、ディディモセラス・アワジエンゼというアンモナイトから進化したと考えられていたが、ディディモセラス・モロズミイはさらにその先祖と考えられ(図4)、奇妙な形をしたこれら3種の進化過程を探る上で重要である。

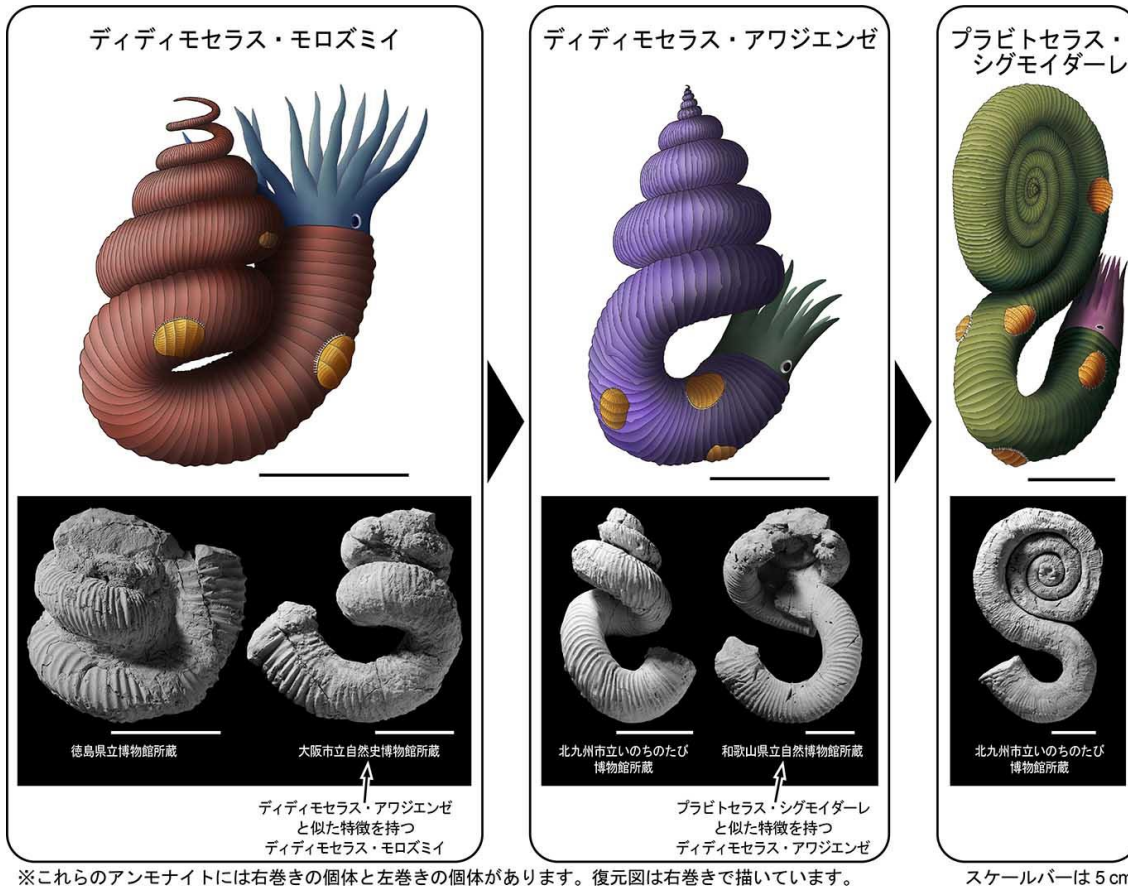


図4. アンモナイト3種の進化過程（黄色く描いているのは共生する二枚貝）。

5, 殻の表面に付着する二枚貝と共生関係にあった

- ・ 共生する二枚貝（ナミマガシワ類）が付着したままの化石がある（図5）。観察結果から、高い頻度で共生していたと思われる。（※ここで言う共生とは、相利共生、片利共生、寄生を含む広い意味での共生である。寄生の関係であった可能性が高いが断定はできない。）
- ・ 御前らの研究によって子孫の2種のアンモナイトにも二枚貝が共生していたことが示されていたが（図4）、共生関係は3種の進化の過程を通して維持されたと考えられる。異常巻アンモナイトと他の生物の共生関係は数例しか知られておらず、また、先祖-子孫の複数の種にまたがる共生関係が化石から分かることは珍しい。

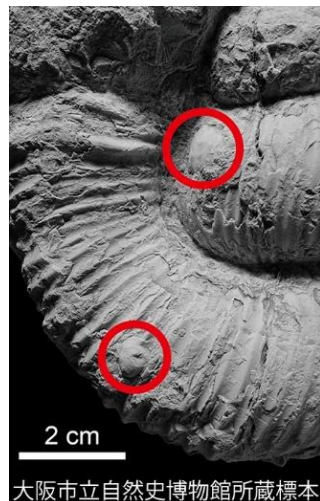


図5. 共生する二枚貝（ナミマガシワ類）が殻の表面に付着したまま化石になったディディモセラス・モロズミの標本。

※ 資料中の図は提供可能です。必要な際にご連絡ください。なお、使用時は画像提供として「北九州市立いのちのたび博物館、徳島県立博物館、大阪市立自然史博物館」を明記してください。